



東日本大震災の早期復興を

東日本大震災で亡くなられた  
方々のご冥福を心からお祈りし、  
被災地の一日も早い復興を願っ  
てやみません。

原爆ドーム世界遺産登録15周年記念

田邊さん(「爆心地」【爆心地】  
【製作者】)の「映像と講演の集い」



決意新たに

広島ユネスコ協会長  
北川建次氏

人にとって馴染みの深いエ  
キゾチックな原爆ドーム、  
戦後見るも無残な変わり果  
てた姿の原爆ドーム、更に

さる十一月  
十九日、「よ  
みがえる産業  
奨励館」をテ  
ーマに映画「爆  
心地」の上映  
と、映像作家、  
田邊雅章さん  
(爆心地復元映  
像製作委員会代  
表)を講師に、  
記念講演会が  
開催されまし  
た。

町の様子を丁寧に再現した  
ものです。  
現在のドーム辺には細工  
町、猿楽町、中島町があり  
賑やかな町並みでした。細  
工町は細工ものを  
作る人々が、猿楽  
町は江戸時代から  
伝統ある能楽師の  
街でした。猿楽町  
は民家商店が軒を  
連ね映画館や旅館、  
写真館レストラン  
等があり、人情あ  
ふれる人々が住む  
街でもありました。  
又元安橋は川船で  
賑わい、大正四年  
建築されたモダン



原爆のつらい思い出を語りながら  
平和を訴える田邊さん

な産業奨励館が川面に映  
え、洋風庭園と共に人々に  
親しまれていました。  
そんな街にある日突然、  
原爆が炸裂、一瞬のうちに

三百五十年の歴史ある街が  
失われてしまったのです。  
この映画の製作者である  
田邊雅章さんは、陳列館と  
呼ばれ親しまれていた産業  
奨励館(現原爆ドーム)の東  
隣に生家があり、「奨励館  
の庭が、日々の遊び場所で  
あった。」。  
そして原爆投下の二日後、  
疎開先から帰宅した田邊さ  
んが目にしたものは、消え  
た生家と無残な奨励館の姿  
でした。

原爆ドームを模範とし  
て平和の砦を築こう！

和の砦を築  
いて行かね  
ばならない。

多くの方々の御尽力によっ  
て、一九九六年(平成八年)  
見事に世界遺産となった。  
負の遺産といわれたが、ど  
うして、どうして未来の遺  
産であ  
る。  
二十  
一世紀、二十二世紀、人類  
がいつまでも核兵器にこだ  
わっていたら、再び世界は  
原爆ドームのように廃墟と  
なり人類は滅亡してしまう

ことを予言し、暗示してい  
るのである。  
我々ユネスコ人は、ユネ  
スコ憲章にあるように、原  
爆ドームを模範として、平  
和の砦を築  
いて行かね  
ばならない。  
十五周年記念事業で  
は、爆心地復元事業に尽力  
しておられる田邊雅章さん  
の講演会をいただき、感謝  
にたえません。

「でも今尚まだドーム  
の前の瓦礫の中に、お母さ  
んと弟が眠っている」と、  
つらい思い出を語られたの  
でした。そして平和遺産と  
なった今「二度とあってはな  
らないあの日のことを伝える  
と共に、爆心地『ふるさと』  
の復元を平和へのメッセージ  
にしたい」と、結ばれたの  
でした。

(平和・世界遺産部会長

柴田幸子)

高橋さんを見舞いに土谷病院を訪ねた十一月一日の夕刻。長い看護疲れの高橋夫人が弾んだ声で「今日、ア行、カ行まで声を出し、サ行までもう一息」。口からの摂食もなく顎が細り、呼吸が荒い。「なぜ、アイウエオ？」と聞くと「証言」との答えが。

立ち向かうエネルギーの源は一九四五年八月六日。その朝、軍国少年の高橋さんは旧制中学校庭の朝礼で被爆。見上げた空にエノラゲイ号。一瞬、閃光と闇。熱線と爆風（高橋さんの証言は四国五郎氏、画家、詩人、の絵と共に展開される）。熱線を浴びた体で同級生を支えて六キロの道を辿り、生死

けつけるなど、病身に鞭打つ証言活動は三千回余に及んだ。この間、広島ユネスコ協会副会長としてユネスコ運動の柱である平和の分野で核兵器廃絶を唱える一方、「平和とは喧嘩や争いのない状態だよ」と子どもたちによさしく話されることもあった。

湾攻撃の米兵士犠牲者の慰霊碑に参り、加害と被害の結節地点に身を置くことにより「憎しみの報復回避」を心に刻み、その体験が後の証言の柱となった。二〇〇八年九月、広島を訪問した米下院ペロシ議長は、高橋さんの証言を聞いた直後「ユウ・アー・ビユーティフル」と声を発した。全く、その生も死も壮絶にしてビューティフルだった。

続けていきます。あなたの魂は永遠のいのちです」と結んだ。高橋さん、過ちがフクシマで繰り返された今、安らかに眠りになれないでしょうが、体はお休みください。高橋さんの心は私たちの心として、ユネスキャンとしてヒロシマ市民として、安らかな世界を目指して進んでまいります。

ヒロシマ語の重鎮 核廃絶の道往きて 逝く

高橋昭博副会長 安らかに

県ユネスコ連協会長 亀井 章氏

絶！

を彷徨う闘病一。

原爆資料館長としては

その二十余時間後の二日朝七時四十二分、永眠。八十歳。「かかつてないのは小児科と産婦人科」と証言で語るほど疾患は多臓器に及び、死因は心不全。平和の闘士は病氣に対する闘士であった。

高橋さんが救急車で入院されたのが今春四月八日。その前日は広島市の新年度採用職員に、前々日は信州大付属中生徒に、連日の証言活動だった。顧みれば、第一回原水禁大会を皮切りにローマ法王

一九八〇年、米ワシントンの上院議員会館で資料館の資料の海外初の展示に尽力された。この時、原爆投下機エノラゲイ号の機長だったポール・テイベッツ氏と会われ、「今後とも戦時、軍人なら原爆投下のボタンを

押す。だから戦争をしてはいけない」と答えてケロイドの手を握った同氏の言葉から「戦争がいけない」と改めて認識したことが、以後、証言で語られる重要なエピソードとなった。その帰途、ハワイの真珠

【活動奨励賞】決まる  
二〇一一年「活動奨励賞」が以下の通り決定。表彰は二〇一二年一月二十一日(土)の「新春フェスタ」で。  
【学校部門】  
広島市・大林小学校 ② 仁保小学校 ③ 牛田中学校 ④ クラーク記念国際高等学校 校広島キャンパス。  
【社会部門】  
国際交流グループ “CANVAS” ② 広島ジュニアマリンバアンサンブル ③ 広島日タイ友好協会 ④ 広島ベトナム協会 ⑤ ひろしまおもちゃ病院 ⑥ ヒョウモンモドキ保護の会 広島市支援隊。



ありし日の高橋さん

をはじめノーベル賞受賞者、修学旅行の児童・生徒など国内外の人々に対し、晩年は病院から車椅子で駆

その帰途、ハワイの真珠

その帰途、ハワイの真珠

その帰途、ハワイの真珠

# 「原爆の子」をうけつぐ会

## ―その発足と最近の活動―

### (一) 発足の経緯

今年、『原爆の子』が発刊されて六十年、そしてその編集者長田新氏の没後五十年、という記念すべき年である。

この記念すべき年に当たり、現在広島に在住する教え子たちを中心として、「『原爆の子』をうけつぐ会」を発足させることとなった。

今年二月五日、広島平和記念資料館で行われた公開講座、長田五郎氏（横浜市立大学名誉教授）の「長田新と原爆の子」と題する講演のあと、たまたま集ったかつての長田新先生の教え子たちを含む数名の仲間のみで提案されたことに始まる。

次いで同月二十七日に会合が開かれ、そこでこの会の結成が承認された。名称を「原爆の子」をうけつぐ

ぐ会」とし、会長を宇野豪、副会長を楠忠之、澤野重男の両氏が引受けることとなった。この二月末現在の

60周年 被爆体験の継承を



広島修道大学名誉教授

宇野 豪氏

会員数は十九名であった。

### (二) 記念行事

四月十日開かれた第二回協議会で、記念行事案が承認された。その行事の名称は「原爆の子」をうけつぐ

いで。その目的は、『原爆の子』の発刊六十周年、編者長田新氏の没後五十年に

当たり、被爆体験の継承と平和学習の進展を図るため、『原爆の子』に込められた平和への思いや願いを受け継ぐ集いを開催するとともに、広島の中学生、高校生、大学生に幅広く『原爆の子』の読書を勧めるための読書感想文の募集を行

題する講演。第二部では、中・高・大学生の演奏や発表、最後に「ねがい」の合唱。このあと『原爆の子』等の読後感想文の募集について説明が行われた。

高校生、大学生及び一般市民を対象とし、募集期間は七月一日〜九月十日。この募集の結果は、応募総数五百二十七名、うち小学校十四校（六十一名）、中学校十二校（四百二十六名）、高校六校（二十一名）、一般十九名、となった。

閉会は坪井直氏（広島県被団協理事長）の挨拶「文化の力で平和を築こう」で締め括られた。

九月二十九日開かれた選考会議で、小学生十三名、中学生十四名、高校生八名、一般六名、計四十一名の作品が優秀作品に選ばれた。

### おわりに

## 読後感想文や随想などを募集し、平和学習を図る

先の記事のなかで書いたように、本会の目的に従って『原爆の子』をはじめとする平和に関する本の読後感想文、体験発表、随想、詩、短歌、俳句、川柳を募集した。広島県内の小・中・

会の発足から十か月を迎えた。そして以上見てきたような活動体験を辿ってきた。それは会員自らの努力もさることながら、関係諸団体・機関の援助協力が得られたからこそ可能となったことを忘れてはならない。

この行事は六月五日（日）午後一時半から、平和記念資料館メモリアルホールで行われた。第一部では、早

志百合子氏（原爆の子きょう竹会会長）の「手記執筆者としての訴え」、舟橋喜

恵氏（広大名誉教授）の『原爆の子』から学ぶもの」と

長田新 明治二十年二月生まれ、一九六一年（昭和三十六年）四月十八日死去。今年が没後五十年。一九四五年広島で被爆。広島文理科大学（広島大学の前身）学長、

広島高等師範学校長。一九五一年十月、被爆した少年少女の手記を集めて『原爆の子』（岩波書店）を刊行。広島大学名誉教授。長野県諏訪郡豊平村（現茅野市）生まれ。

# 広島から韓国・大邱広域市へ ユネスコ 平和・友好の旅

2011・10・10 ～ 10・14

【主な旅程】  
 十月十日／広島↓下関港発  
 十一日／大邱薬令市韓医薬文化館↓伝統民族村  
 十二日／市教育庁↓鹿洞書院↓ホームビジット↓世界陸上スタジアム↓自然科学高等学校  
 ↓青茶文化院  
 十三日／釜山市出港  
 十四日／下関港↓広島



青茶文化院でチマチョゴリを試着



韓薬材卸売市場で（中央左が筆者）

薬令市、民族村、自然科学高校など訪問

「温かい心」を維持しゆくために、  
手をつなぐこと、交流の大切さ学ぶ

世木田寛子 理事

「二〇一一年・広島ユネスコ協会友好訪問団」は、十月十日～十四の日程で、韓国・大邱広域市へ行って来ました。藤川和康団長のもと、藤井正一、丹羽岳宏、



皆さんからの激励署名

政岡峰子、世木田寛子の五人。姉妹都市大邱では、宋承達会長はじめ二十人のメンバーが、四泊五日（二泊は船中）にわたって大歓迎でした。それに応えるべく失礼のないよう、常にこやか、かつ真心を持ち、広島ユネスコ協会の会員らしさを出すことを念頭に親睦を深め、文化の紹介に努めて参りました。

大会も開催されたこともあつてか、街がどんどん広がってきている感がありました。広い平地に巨大な建造物が次々と創設され、先進的イメージで輝いていました。ある自然科学高校は莫大な敷地に、市民へ出荷するという稲作や果樹の栽培、植物の培養など、農業試験所と植物公園、そして高等学校が合併したような企画が現実のものとな

（訪問団メンバー＝敬称略）  
 藤川和康、丹羽岳宏、世木田寛子、政岡峰子



宋会長(中)宅でホームビジット

り、そこで生活する生徒達のまなざしは若者らしく生き生きとしていました。その反面、「茶の心」を子どもたちに教えるワークショップや古くから伝わる漢方文化が、がっちり根づいていることも印象的でした。

ホームビジットは、大邱ユネスコ協会の会長、副会長様の家を三つに分かれて訪問しました。日々の生活のありのままの姿を見せて

いただくことが出来ました。そこで印象的だったことは、先祖を大変大切に、四代の者が年に何度か一堂（長男の家）に会し、家系の話等を中心に先祖の崇拜、語りかけをするという話、オンドルが今では床下に蒸気を通す方法で行なっていること、キムチ作りの話など、従来の韓国文化の



平和の鐘をつく北川会長とゲストの皆さん

# 「2011平和の鐘を鳴らそう」

今年も八月十五日に、「平和の鐘を鳴らそう」の集いが行われました。この中で、ワールドフレンズシップセンターのシムズ館長は、世界平和のため、紛争のない世界を作るために尽くしていく、と。タイからの広島市研修生ウイリヤ・リンビティープラカンさんは、広島で見たことをタイの人々に伝えたいと決意を。広島大学附属高校二年生の堂前綾香、藤田優さんは原爆や被害に向き合い、知り続け、

考え続け、語り続け、願い続けることが大切。世界中の人々が支えあって生きることが、平和への歩みとなる、と訴えました。

## 国際交流・協力の日

国際交流活動などを行っている市民団体・企業が中心となって、平成十二年度から開いている「国際交流・協力の日」のイベントが十一月二十日、国際会議場で開かれ、広島ユネスコ協会も、その一員として、活動募金活動。

## 高校生国際理解セミナー

十二月二十三日(金・祝)に、高校生中心の「国際理解セミナー」が開かれます。午前は中区青少年センターで、中山修一広島大学名誉教授(広島ユネスコ協会副会長)のESDに関する基調講演や、高校生の体験発表、意見交換が。午後からは、世界寺子屋運動支援の

継承の姿でした。しかし、やはり現代の風への憂いの声も聞かされました。以前は儒教が教育の根底にあったものが、今ではほとんど壊れてきている。小中高校の生徒達の道徳心のなさ、基本的生活習慣、及びその精神が弱体化してきていることへの嘆きが大きかったようです。これは韓国だけのことでなく、共通した課題として考えていくことが必要と思いました。伝統文化、最新科学、経済成長、それらのバランスの中で、人々が



伝統民族村を見学



大邱自然科学高校で



大邱世界陸上スタジアム前で

かけがえのない温かい人の心を維持することの恒久の課題と、手をつなぐことで

果たされるものの大きさを感じました。そのような観点からもユ

ネスコ協会の果たす役割と交流の意義を痛感した旅でした。このような訪問を会

員の多くの人が体験していきとよいなどつくづく思いました。

一月に新春フェスタ  
活動奨励賞受賞式も

第十四回「ユネスコ新春フェスタ二〇一一」は、来年一月二十一日(土)午後二時から、広島市文化交流会館(旧広島厚生年金会館)で開かれる予定。フェスタでは活動奨励賞の表彰や演奏などが行われ、交流や友好が図られるものと期待さ

日誌

れます。

〔7月〕  
25日/ユネスコ活動奨励賞候補推薦委員会  
(広島国際会議場)

26日/ユネスコ活動奨励賞募集要項発送  
(8月)  
1日/ユネスコ活動奨励賞募

集開始(締切9月30日)

15日/「平和の鐘を鳴らそう」(広島平和記念公園)  
18日/活動奨励賞検討教育部会  
(市民交流プラザ)

29日/高校生国際理解セミナー協議  
(広島大附属高校)  
30日/原爆ドーム世界遺産登録十五周年記念事業協議  
(市民交流プラザ)

〔10月〕

1日/第一四八回ユネスコサロン「橋に見る広島風景と歴史」グリーンブリーズ代表取締役 平木 久恵さん  
(市民交流プラザ)

5日/ユネスコ活動奨励賞候補推薦団体決定  
(国際会議場)  
7日/原爆ドーム・厳島神社世界遺産登録十五周年記念事業・広島ユ協と協議

(廿日市市宮島町)

10/14日/姉妹提携協会友好親善訪問(韓国大邱広域市)  
17日/ユネスコ活動奨励賞選考委員会(国際会議場)

18日/機関紙編集内容協議  
広報部会(市民交流プラザ)  
30日/「あせろべ」(伝承遊び)  
(中央公園芝生広場)

〔11月〕

19日/原爆ドーム世界遺産登録十五周年記念「映像と講演の集い」テーマ「よみがえる産業奨励館」上映映像「爆心地」映像作家 田邊 雅章さん(平和記念資料館)  
20日/「国際交流・協力の日」活動紹介展示部門に参加  
(国際会議場)

〔12月〕

15日/機関紙第79号発行

教育部会理事

大鼓矢 晋氏



その日が、昭和二十二年の十二月六日であつたと確認できたのは、宇野豪先生の著『草創期の広島ユネスコ運動』のお陰です。感謝しています。

この日、広島一中新聞班は、土橋訓之先輩(広島ユネスコクラブ代表理事)達と、森戸辰男先生の講演「国際平

和とユネスコ」を、広島高等学校講堂(現広島大附属高校)でお聞きしたのでした。そして、この講堂・キャンパスは、その後ユネスコ共同学校の教育実験やユネスコ班、また、当広島ユ協会との関わり等で、活動の砦になつたのでした。

今は家族から夜間の外出禁止令が出されている身ですが、ユネスコは世界への窓、サロンを我が心の糧としています。なお土橋さんは今春三月二十四日、他界されました。(享年八十一歳)。ご冥福をお祈りしています。

の顔と心 広島ユネスコ協会の

協会会員

政岡峰子さん



温かい人達です。広島ユネスコ協会の活動には、余り参加出来ませんが、一つでも続けて(大邱友好訪問、広島での歓迎会)参加しようと思つています。

何か皆さんのお役に立てられたらと考えるようになりました。難しいことは分かりませんが、どこの国の人、誰でも仲良く、温かい気持ちで毎日過ごせたら、と思う歳になりました。「初心忘るべからず」。どんな時でもこの言事を思い返して、頑張っています。

広島ユネスコ協会のホームページアドレス変更

広島ユネスコ協会のホームページアドレスが、十二月二十一日から次のように変わります。新アドレスは <http://www.unesco.or.jp/hiroshima/>です。よろしくお願ひします。